

交通標識のような街を感じるサイン

◆標識のようなサイン

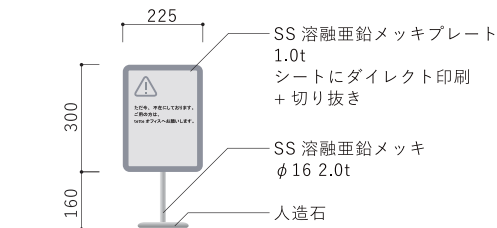
一階のtette通りは屋外のような床勾配があるなど、内部でありながら外部のような空間である。このような建物コンセプトに相応しいサインデザインとして、街中にある標識(交通標識・看板・バス停など)をモチーフにしたサインを館内に設置することで、利用者の目に留まりやすく、行きたい場所へストレスなくたどり着ける。

◆情報内容によって形状を分ける

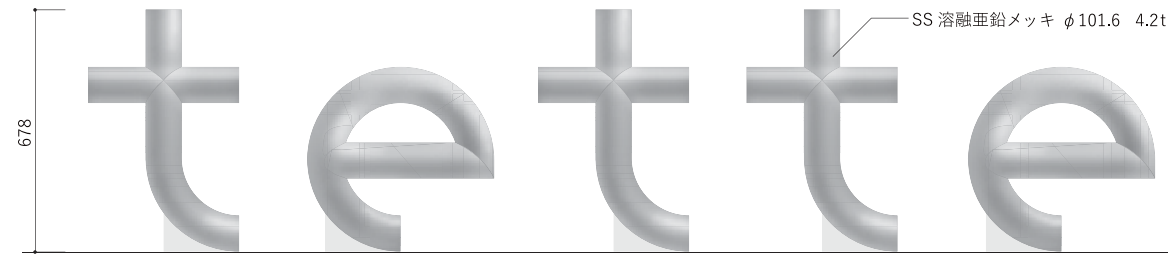
情報の内容とサイン自体の形状をリンクさせることで、慣れてくると探したい情報が、少し離れた場所からでも感覚的にわかるようになり、よりスムーズにサインシステムが機能する。

◆書き込めるサイン

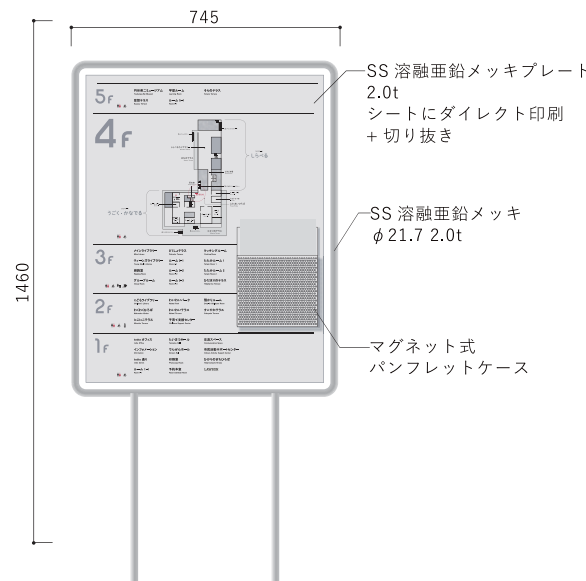
サインの一部をホワイトボード塗装とした、「書き込める」サインを設置する。掲示内容の迅速な変更・更新への対応が可能となり、既存のサインの雰囲気を壊さずに運営ができる。また、マグネットを使って印刷物を掲示することもできる。



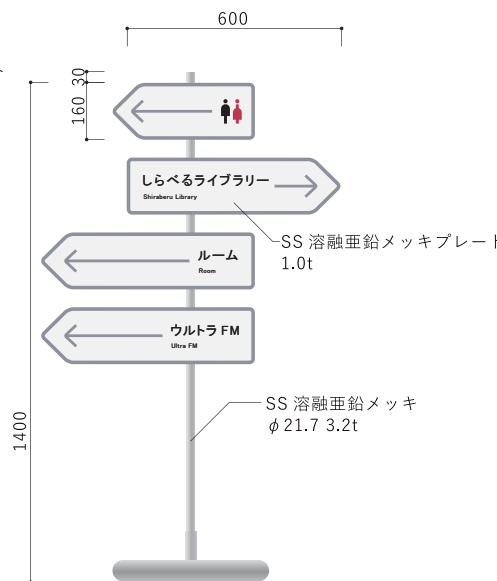
インフォメーション卓上サイン S=1/20



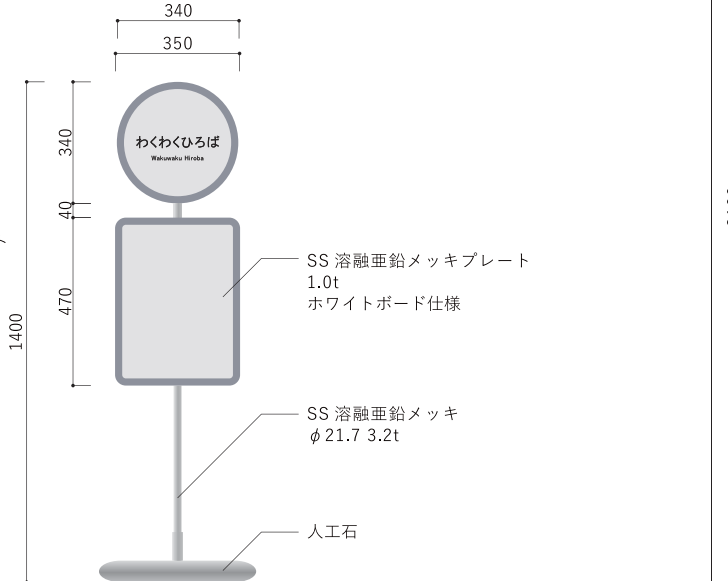
施設名サイン S=1/20



フロア案内サイン S=1/20

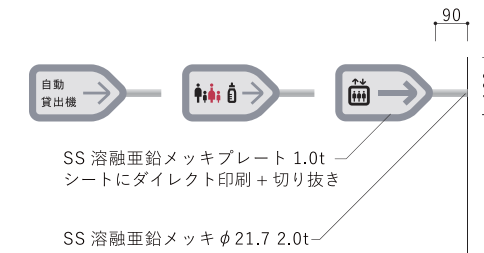


誘導サイン S=1/20



インフォメーション案内サイン S=1/20

ピクトサイン S=1/20



テーマ配架を実現する図書館サイン

◆更新性の高い書架サイン

全8種のカラーバリエーションで、書架の上にエリアサインと同じ円形のサインを設置し、書架テーマを示す。ラベルやブックエンドのサイン(ジャンル表記)とも連動するため、遠くからでも色で識別が可能である。また、サークル状の縁はマグネット式となっており、テーマの更新に対して簡単に中の紙を入れ替えることができるようになっている。

◆施設サインのデザインと連動した本のラベル

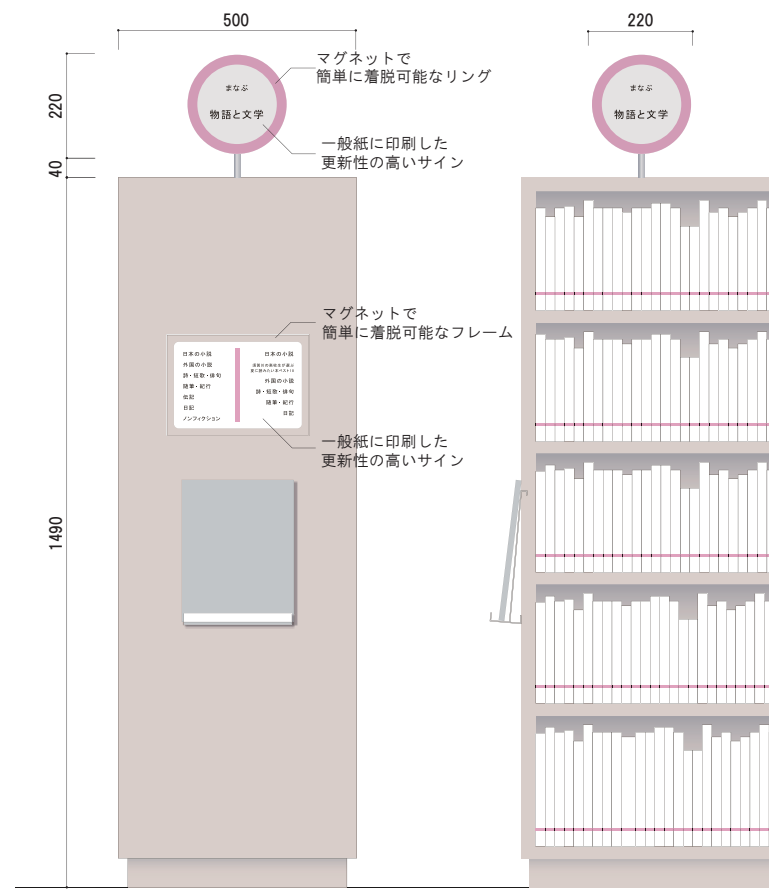
テーマ配架に対応した本のラベルを計画した。上段にフロアテーマ、下段にカテゴリーを記し、下段の色は配架テーマと連動し、すぐにそのフロアのどこにある本かが分かるシステムとした。

あそぶ	しらべろ	る・そだ	であう	うごく・かなで	つくる	くごく・かなで	まなぶ	しる・そだつ	くごく・であう	しらべろ	まなぶ	つくる	うごく・かなで	くごく・かなで	あそぶ	しらべろ
ちゃん向け絵本	川をもっと	ことば	ワークライフバランス	オリンピック	雑誌	オリンピック	クライフパ	世界の	ことばに	ライフパ	川をもっと	クライフパ	雑誌	オリンピック	ちゃん向け	川をもっと
007.6	007.6	007.6	007.6	007.6	007.6	007.6	007.6	007.6	007.6	007.6	007.6	007.6	007.6	007.6	007.6	007.6
オー-1	オー-1	オー-1	オー-1	オー-1	オー-1	オー-1	オー-1	オー-1	オー-1	オー-1	オー-1	オー-1	オー-1	オー-1	オー-1	オー-1

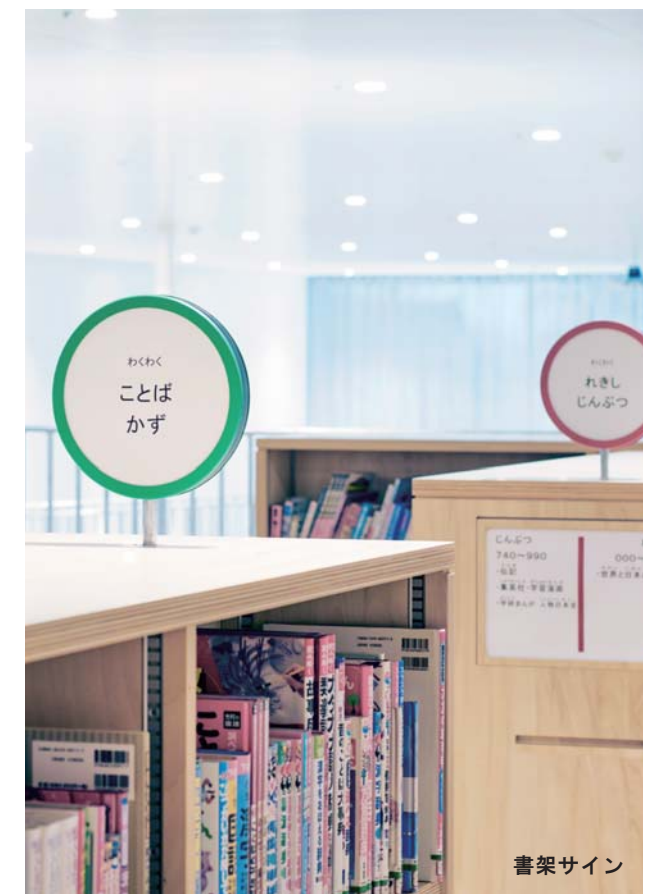
本のラベルサイン使用イメージ (テーマに無関係に置いた場合)

まなぶ ワークライフバランス	つくる 雑誌	うごく・かなで オリンピック	しらべろ 須賀川をもっとまなぶ	であう ダミー文字ダミー文字ダミー	しる・そだつ 世界の	あそぶ ちゃん向け絵本	はくむ イクメン・イクジイ
007.6 オー-1	007.6 オー-1	007.6 オー-1	007.6 オー-1	007.6 オー-1	007.6 オー-1	007.6 オー-1	007.6 オー-1

本のラベルサイン



書架サイン立面図 S=1/20



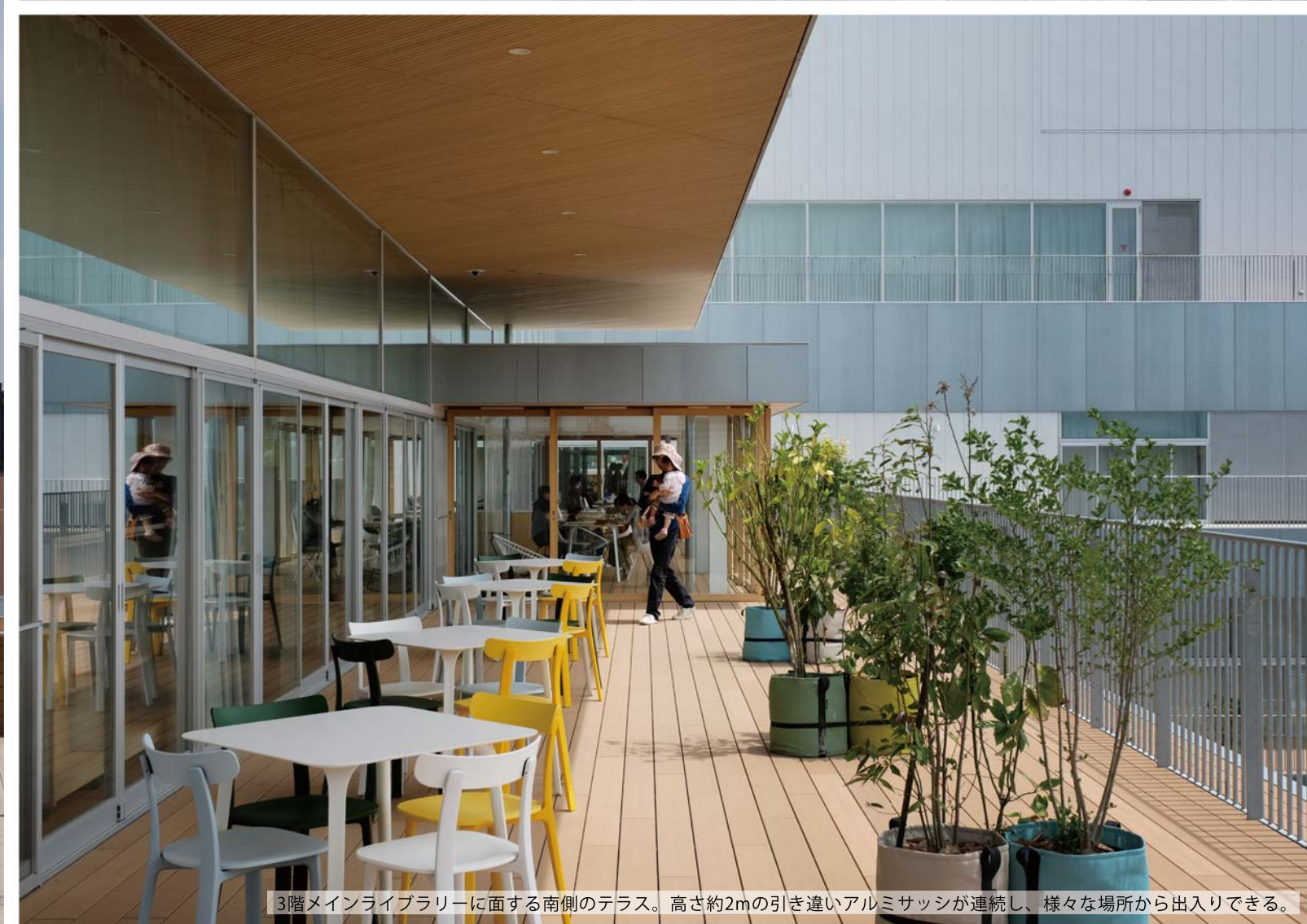


4r
3f

3階テラス。テラスは1階から5階まで屋外階段で繋がっており、緊急時の避難ルートとしても機能する。



2階わいわいパークに面するテラス。所々に設けた小山が子どもたちの遊びを誘発する。



3階メインライブラリーに面する南側のテラス。高さ約2mの引き違いアルミサッシが連続し、様々な場所から出入りできる。

ハードとソフトを結ぶチームデザイン

◆組織設計事務所と若手建築家の協働

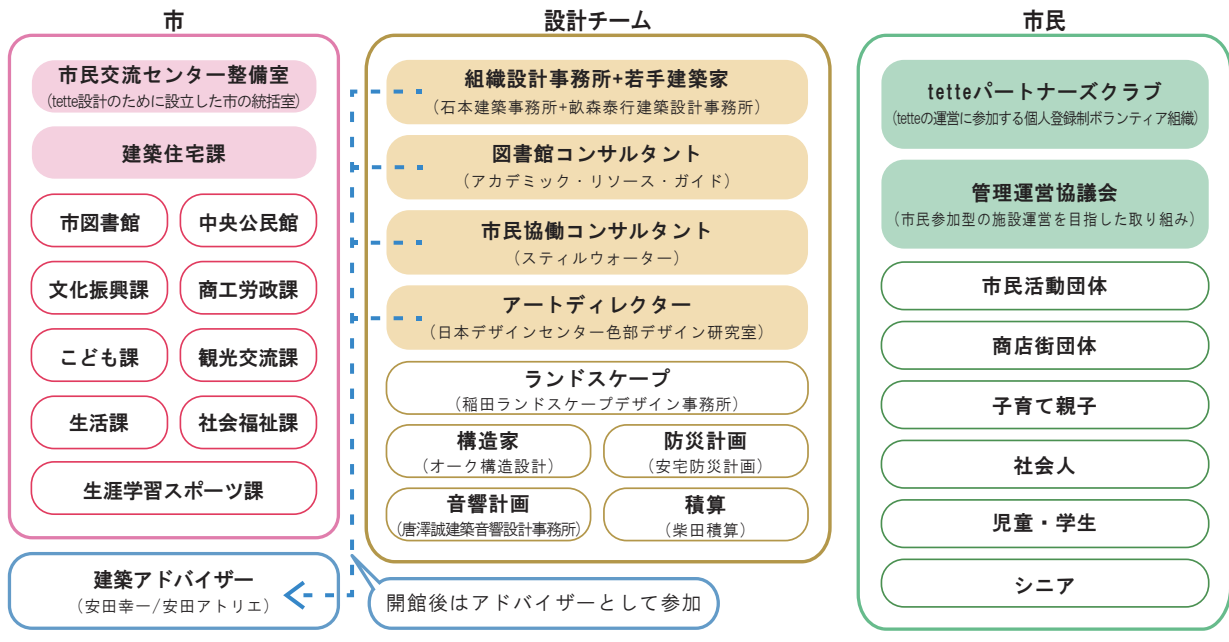
組織設計事務所と若手建築家がチームを組み、基本設計から工事監理まで一貫して協働したプロジェクトである。
 (この協働はプロポーザル時の参加条件でもあった) 須賀川市が掲げる「創造的復興」を実現するため、組織設計事務所の経験と若手建築家の新しい発想によって、それぞれの特性を重ね合わせた、大胆できめ細やかな建築を実現した。

◆設計チーム、行政、市民との協働

図書館コンサルタントや市民協働コンサルタント、アートディレクター、ランドスケープデザイナーなど、ハードからソフトまで各分野のプロフェッショナルが集結した設計チームである。また行政側は各課を統括する「市民交流センター整備室」を設計時から設置、さらに市民側も施設の運営に参加する「tetteパートナーズクラブ」の組織化を開館前から準備を進めた。35回に及ぶ市民ワークショップも開催し、設計・行政・市民が一体となって協働したプロジェクトである。

◆開館後を見据えたアドバイザー組織

設計時から建築アドバイザーが設計内容や工事状況を随時チェックする体制を構築した。さらに開館後は設計者やアートディレクターなどがアドバイザーに加わり、施設の運営や利用状況の確認、助言等を行う場を定期的に設ける予定だ。建築がいかに育っていくか、設計者が長く見届ける体制を構築した。



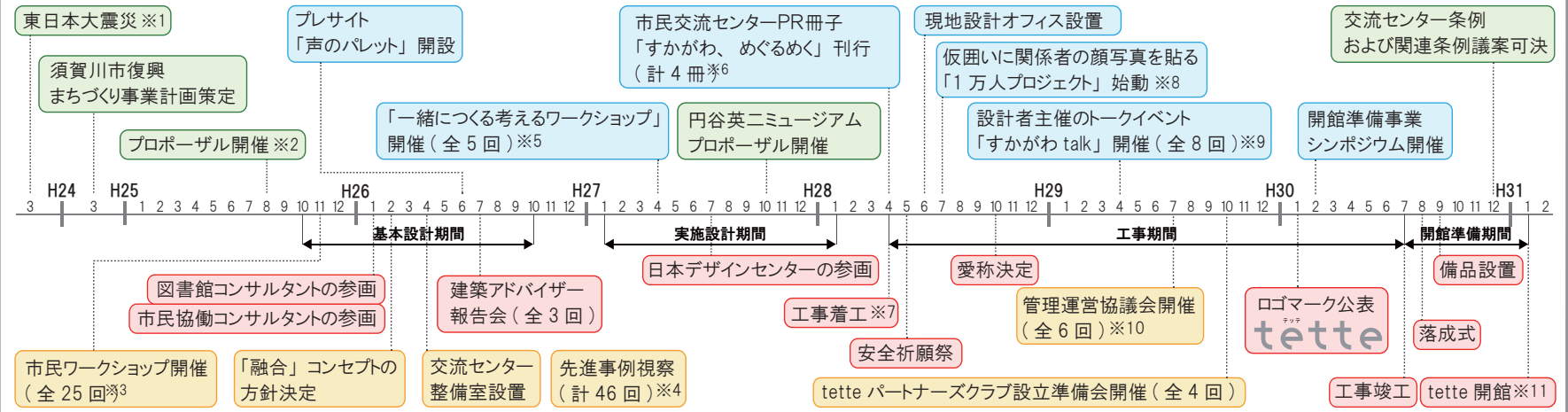
開館後を見据えたプロセスデザイン

施設の開館後、いかに市民に利用してもらえるかを設計時から検討した。そのため、建物（ハード）の設計に加え、運営（ソフト）に関するワークショップの開催、官民協同による運営の組織化、また施設の情報発信（PR冊子の作成など）を市と共にトータルに計画した。

○ 建築・建設関係 ○ 市・行政関係 ○ 設計と市の協働 ○ 広報・広告関係



※1) 震災時の須賀川市 ※2) プロポーザル案の俯瞰パース ※5) 「一緒につくる考えるワークショップ」の様子 ※6) 「すかがわ、めぐるめく」 ※8) 仮囲いに写真を貼ることもたち ※9) 「すかがわ talk」の様子



※3) 市民ワークショップの様子 ※4) 市職員や協力事務所との視察の様子 ※7) 着工時の現場俯瞰写真 ※10) 管理運営協議会の様子 ※11) オープニングセレモニー時の tette 通り

設計者（候補者）の役割と関係

◆候補者の果たした役割



佐藤 維 一級建築士
 所属：(株) 石本建築事務所
 石本建築事務所と畝森泰行建築設計事務所を繋ぎ、事務所間の円滑な進行を図った。



十河 一樹 一級建築士
 所属：(株) 石本建築事務所
 総合的な設計および監理を担当。
 組織設計での経験を活かし、主に法規チェックや機能面での技術管理も行った。



畝森 泰行 一級建築士
 所属：(株) 畝森泰行建築設計事務所
 総合的な設計および監理を担当。
 30代の若さから生まれる新しい発想力で、デザインを中心に総合的に設計・監理を行った。



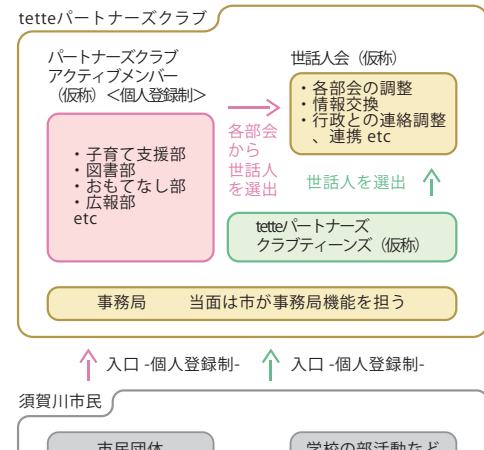
本プロジェクト室での打ち合わせ風景



設計期間中の市担当者・建築アドバイザーとの打ち合せ

「tetteパートナーズクラブ」による、使う人が使うことを考えたルール作り

市民との協働を目指し、行政のパートナーとして施設の運営に関わってもらうためのボランティア組織「tette パートナーズクラブ」を開館に合わせて設置した。平成 29 年 6 月に本クラブの在り方や基本的な方向性を検討するための「設立準備会」を設置し、市民から公募したメンバー 18 人と市の関係職員 16 名を交え、全 4 回開催。また、「NPO 法人岡崎まち育てセンター・りた」事務局次長の三矢勝司さんをゲストに招き、実体験をもとに「行政と市民、NPO 法人がどのように協力しながらプロジェクトを進めてきたか」、「須賀川でやるならばどうするのか」などをテーマに意見交換を行い、tette パートナーズクラブの基本的な方向性を固めていった。



「tette パートナーズクラブ」の設立準備会の様子

「機能融合」へのきっかけとなった市民ワークショップ

施設が完成するまでの間に全33回（←要確認）、そのうち25回の市民ワークショップを基本設計当初の2ヶ月間に開催した。延べ約100人の参加者から1,400以上の様々な意見が挙がったが、そのなかには例えば「クッキングルームで食育について学びたい」や「屋内遊び場に絵本も置いて欲しい」といった機能を横断的に利用したい声があった。そういった管理区分を越えた利用を求める市民の声が、活動と情報が融合する「機能融合」のコンセプトに向かう大きなきっかけになった。



賑わい・商業ワークショップ



第1回 (13.11.18) 第2回 (13.12.02) 第3回 (13.12.09) 第4回 (13.12.16)

図書館ワークショップ



第1回 (13.11.11) 第2回 (13.11.18) 第3回 (13.11.25) 第4回 (13.12.02)

市民活動ワークショップ



第1回 (13.11.23) 第2回 (13.11.30) 第3回 (13.12.09) 第4回 (13.12.16)

生涯学習（公民館）ワークショップ



第1回 (13.11.11) 第2回 (13.11.18) 第3回 (13.11.25) 第4回 (13.12.02)

生涯スポーツ（健康増進）ワークショップ



第1回 (13.11.25) 第2回 (13.12.02) 第3回 (13.12.09) 第4回 (13.12.16)

子ども遊び場ワークショップ



第1回 (13.11.11) 第2回 (13.11.18) 第3回 (13.11.25) 第4回 (13.12.09)

シニアリーダーズクラブワークショップ、一緒につくる、考えるワークショップ



第1回 (13.12.12) 第1回 (14.07.05) 第2回 (14.07.19) 第3回 (14.08.02)

みんなで一緒につくる考えるワークショップ「かえりたくなる街の作り方」

平成26年～28年にかけて、施設開館後の具体的な利用方法について想像をめぐらせ、毎日がより充実していく道筋を市民と一緒に考えていくことを目的としたワークショップシリーズ「かえりたくなる街の作り方」を計5回開催した。「音楽」「食」「場づくり」「プレイヤー」「映画」を切り口に、さまざまなジャンルのプロフェッショナルをゲストに迎え、ゲストの豊富な経験を共有しながら、須賀川でどんなことができるのかを参加者全員で考えた。全5回のワークショップは、10代～20代が半数を占める回もあり、時にはゲストと参加者が一緒になって身体を動かすなど、都度異なる雰囲気や皆で作りあげた。



第1回 15.05.31
たとえば、音楽フェスをつくる
ゲスト：平間至（写真家）、ATSUSHI（Dragon Ashダンサー）
阿部徳和（塩竈市役所建設部長）、高橋英良（株式会社小島蒲鉾店）



第2回 15.10.12
たとえば、地元食材を使った料理づくり
ゲスト：ドミニク・コルビ（フレンチ割烹 Dominique Corby ディレクター・ジェネラル）



第3回 15.11.12
みんなで“場づくり”を考えよう！
ゲスト：水代優（good mornings 株式会社代表取締役）



第4回 16.07.18
オトコトバツクリ
ゲスト：大谷賢治郎（演出家）、青柳拓次（音楽家）



第5回 16.11.06
ゼロからつくる街の映画館
ゲスト：古川雅裕（株式会社大黒屋代表取締役、NPO法人カルチャーネットワーク副理事長）

須賀川市発行PR冊子「すかがわ、めぐるめぐ」により須賀川を見つめなおす

施設の概要をはじめ、設計中や工事中の情報を一人でも多くの市民に関心を持ってもらい、また開館後に利用してもらうことを目的に、平成28年春に創刊されたPR冊子。須賀川の街で出会う人やもの、ものごとを取材し、須賀川の魅力を伝えた。例えば町中に飾られている子どもの絵、地元の食を支えるマーケット、好きな本や音楽について市民に取材し紹介するページから須賀川に縁のある著名人のインタビューまでその内容は多岐に渡った。第3号の特集ページでは、tetteが担う機能のひとつでもある子育て支援特集を組み、子育て中の女性を中心とした市民活動団体と一緒にページをつくるなど、同冊子の制作を通して、市民と継続的な関係性を築いていく試みも行った。表紙と裏表紙の写真は、須賀川市出身で、故郷を被写体を選びフィルムで撮り続けている写真家、村越としや氏が撮影。



第2号見開き

第3号裏表紙

第3号表紙

第4号表紙

tetteのオープン後をみんなで語る設計者主催の「すかがわtalk」

石本+畝森主催のトークイベント。施設の工事監理に合わせて現地に設けた「須賀川オフィス」を活用し、計8回開催した。須賀川市内のゲストおよび須賀川に関係する市外のゲストと一緒に招き、それぞれの活動の紹介や tette 完成後の街のあり方など様々な視点から意見を交わした。このイベントに登壇した市内ゲストが施設のチャレンジショップに出店したり、tette パートナースクラブに入会しており、さらに一部の市民によってこの「すかがわtalk」が継続開催していく動きも生まれようとしている。

◆これまでのテーマとゲスト

第1回 須賀川のまちを知る、人を知る	有馬 毅 市岡 綾子	Rojma 実行委員 須賀川市商工労働課 日本大学工学部建築学科専任講師
第2回 ひと・くらし・デザインをつなぐ	吉田 有希 stillwater	株式会社 REVOL design company FAAVO 福島エリアオーナー stillwater
第3回 まちとカフェ、コーヒーのある場所	齋藤 佑二 李 明喜	Ordinary coffee 代表 アカデミック・リソース・ガイド株式会社
第4回 まちをつくる大きな建築、小さな建築	阿武隈川 哲郎 十河 一樹	LITTLE NEST WORKS 代表 株式会社 石本建築事務所
第5回 まちと文化～受け継ぎ、育み、つくること～	菅野 和恵 栗國 嘉隆	須賀川市立博物館 学芸員 株式会社 丹青社
第6回 デザインから学ぶ	神山 俊一 色部 義昭	DNP 文化振興財団 COGA 現代グラフィックアートセンター 副センター長 日本デザインセンター 色部デザイン研究室 主宰
第7回 こどもと街の未来を考える	マミーズガーデン 鷲見 健一	マミーズガーデン 株式会社アンス
第8回 tetteと須賀川のこれからを考える	佐久間 貴士 岡本 真 畝森泰行	須賀川市文化スポーツ部参事 兼 市民交流センター整備室長 アカデミック・リソース・ガイド株式会社 代表取締役 株式会社 畝森泰行建築設計事務所 代表取締役



第3回すかがわtalkの様子



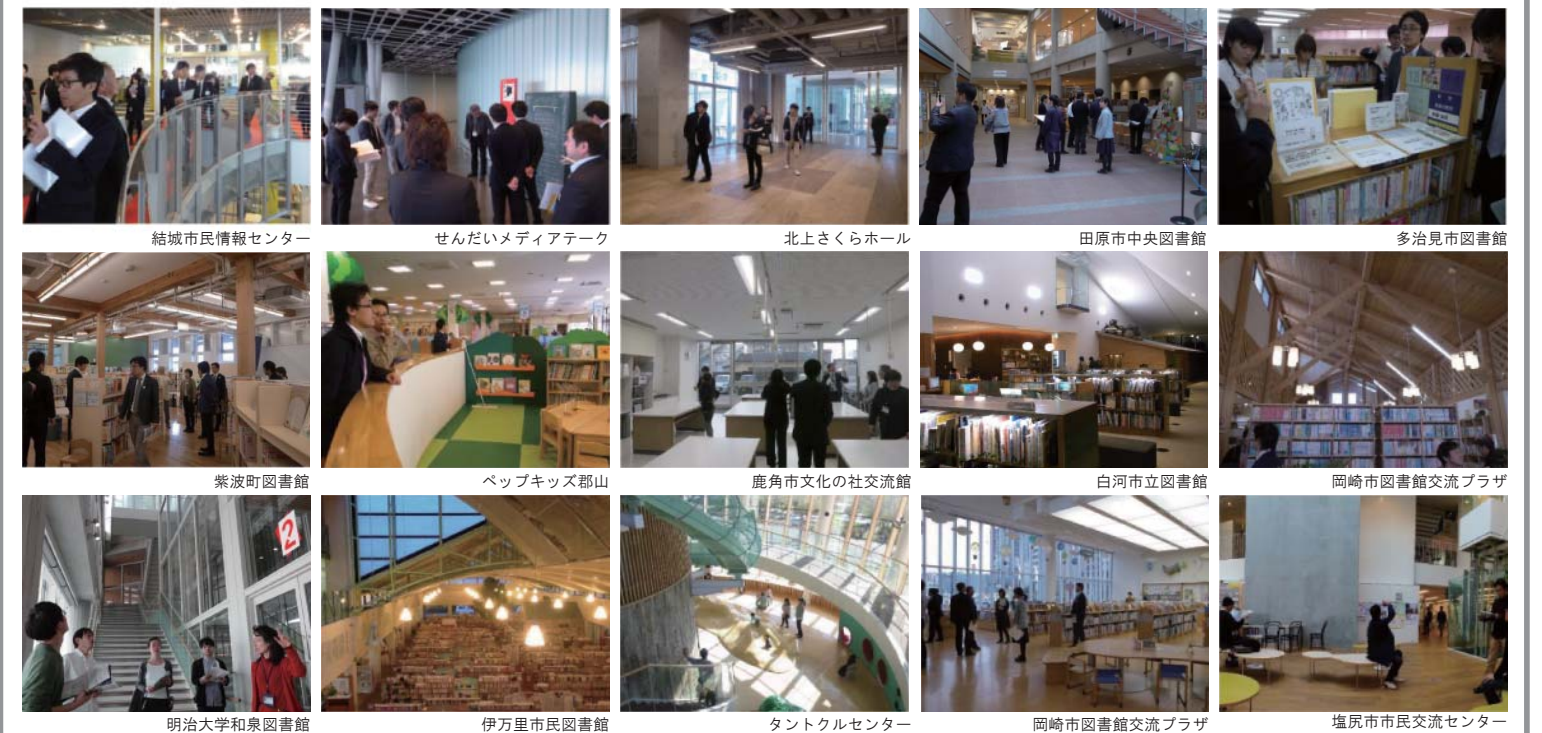
第5回すかがわtalkの様子



先進事例より学び、チームをつくっていく

設計開始当初から全国の図書館や複合施設をはじめとした、さまざまな公共施設や民間施設を視察し、その先進事例を実際に見て学んだ。視察は設計事務所と市の担当職員、図書館コンサルタント、市民協働コンサルタントなどの設計チームで見学し、時間を共有しながらその場で多くの意見を交換することで、課題や目標を共有し、お互いの考えを理解し合う貴重な機会になった。また、視察先職員や利用者の生の声を聞き、その街の状況を感じ取ったことが、単に施設だけの設計にとどまらない、街づくりや市民との協働という運営、ソフト面への意識をもつ大きなきっかけになった。

- | | |
|----------------------------|-------------------------------|
| 13.11.02 塩尻市市民交流センター えんぱーく | 14.10.31 岡崎市図書館交流プラザリぶら |
| 13.11.02 茅野市民館 | 14.10.31 多治見市図書館 |
| 13.11.02 小布施町立図書館まちとしょテラス | 14.11.05 東根市さくらんぼタントクルセンター |
| 13.11.18 須賀川市公民館・図書館 | 15.01.14 昭和記念公園 |
| 13.11.23 21世紀記念公園(麓山荘) | 15.01.31 山梨県立図書館 |
| 13.11.23 はたけんぼ | 15.02.14 葛飾区立中央図書館 |
| 13.11.23 郡山 PEP キッズ | 15.03.18 明治大学和泉図書館 |
| 13.11.23 郡山 S-PAL | 15.03.27 ペップキッズ郡山 |
| 13.11.23 須賀川イオンタウン | 15.04.04 おおたかの森小中学校 |
| 13.11.25 鏡石町図書館 | 15.04.11 郡山中央公民館・勤労青少年ホーム |
| 13.11.30 白河市立図書館 | 15.04.11 向山製作所(郡山駅) |
| 13.12.02 翠楽苑 | 15.04.11 須賀川市文化センター |
| 13.12.02 大東公民館 | 15.11.05 結城市民情報センター |
| 13.12.02 地域交流間ばたん | 16.03.25 ぎふメディアコスモス |
| 13.12.18 郡山ビッグアイ 市民プラザ | 17.03.24 滝沢市交流拠点複合施設 ビッグルーフ滝沢 |
| 13.12.19 タントクルセンター | 17.03.26 鹿角市文化の社交流館・コモッセ |
| 14.01.20 須賀川アリーナ | |
| 14.02.05 須賀川市岩瀬図書館 | |
| 14.02.05 須賀川市長沼図書館 | |
| 14.04.16 東北視察会(名取、紫波) | |
| 14.04.17 東北視察会(盛岡、北上、仙台) | |
| 14.05.09 牡丹園 | |
| 14.05.10 南相馬市情報交流センター | |
| 14.07.20 西新井ギャラクシティ | |
| 14.08.12 ムシテック | |
| 14.08.12 福島空港 | |
| 14.08.30 ウルトラマンフェスティバル | |
| 14.09.10 SJS 工場見学 | |
| 14.09.18 伊万里市民図書館 | |
| 14.09.18 武雄市図書館 | |
| 14.10.27 須賀川キッズパーク | |
| 14.10.30 田原市中央図書館 | |





2階テラスから見る南側外観。排煙のためのエキスパンドメタルやサンルームの木製建具、スラブ端部の耐候性メッキ鋼板など様々な要素が現れるファサード。